

## 一般質問



薄井孝彦

### 1. 高瀬川の洪水時の避難対策は。

【質問1】長野県は最大想定降雨量（741mm/48時間）に基づく高瀬川浸水想定区域図（以降、新想定図）を昨年11月15日に公示した。

新想定図では、高瀬川堤防の決壊などにより町平坦部の大部分は浸水し、その半分は建物一階が浸水する（水深0.5m～3.0m）大洪水となる。町民の命を守る避難対策の進め方は。

【回答】新想定図に基づき洪水時の指定緊急避難場所、指定避難所を変更し、町民の皆様にお知らせする。また、各家庭で時系列で避難準備・避難先をご記入いただくマイ・タイムライン作成に取り組む。

【質問2】新想定図に基づく町ハザードマップ（浸水・土砂災害発生地点区域図）の早期作成を。 【回答】早期作成に努める。

【質問3】ゲリラ豪雨に伴う内水氾濫浸水図（内水ハザードマップ）の作成を。

【回答】データがなく作成困難である。必要なデータ整備の経費を検討する。

【質問4】内水氾濫に対応するため内川に水位観測所を設置し、監視カメラ、テレメーターの設置を（町民・役場の皆さんのが内川の状況をリアルタイムで見れる）。

【回答】設置を検討する。

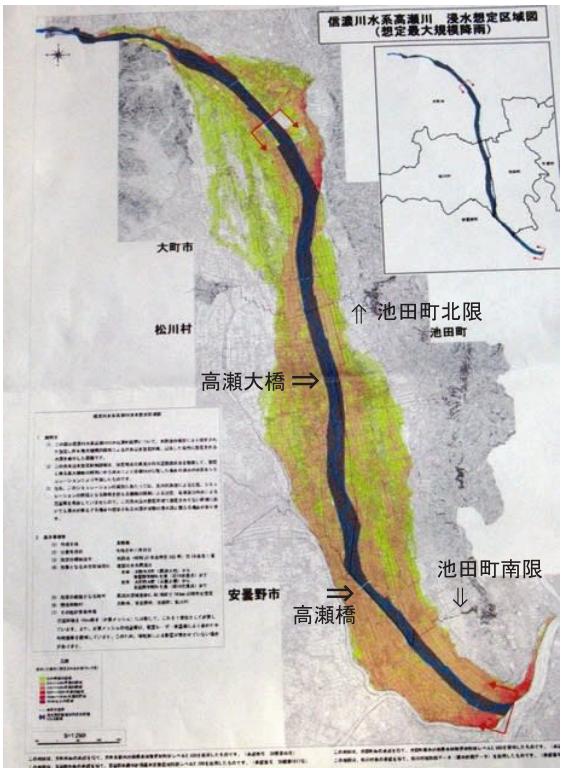


写真1 想定最大降雨量に基づく高瀬川浸水区域図

緑色＝水深0.0m～0.5m 橙色＝水深0.5m～3.0m



写真2 内鎌地区の霞堤（河川側）



写真3 内鎌地区の霞堤（陸地側）

### 3. 来年度からのハーブガーデンなどの管理は。

【質問1】ハーブガーデン・ガラス温室などは来年度から町管理となる。これらの施設は何を目指すのか。

【回答】足を運びたくなる仕掛けをつくり、五感で感じる楽しいハーブ園を目指す。

【質問2】施設の管理体制は。どのように管理するか。

【回答】施設の統括管理は産業振興課「花とハーブの里」推進係が担う。問題点を探求し、町民の意見を聴き検討していく。

## 一般質問



服部久子

### 1. 教員の「変形労働時間制」導入についての町の考えは。

【質問1】昨年11月19日の衆院本会議で、教員の勤務時間を年単位で調整する「変形労働時間制（※）」の導入を柱とする教職員給与特別措置法（給特法）改正案が可決成立した。中学校教員の超過勤務時間は月91時間20分（長野県教組調べ）と異常事態である。給特法改正案は教員の超過勤務をさらに増やし、教員の過労死につながる恐れがある。また、子どもへの影響も考えられる。その導入は自治体の判断で2021年4月から可能と言われている。教員の「変形労働時間制」の導入について、町はどのように考えるか。

【教育長】県教育委員会は、学校現場から要望があった場合、自治体の判断で対応して良いとしている。町は、教員と学校長の協議で合意が得られた場合にその意思を尊重する。また、教員の働き方・健康は十分留意していく。

【質問2】日本は教育にかける支出がOECD加盟国の中下位である。教員の異常な超過勤務を改善するためにも、町は国・県に、教育予算と教員を増やすよう他自治体と協力して要望して欲しい。町長の考えは。 注：GDB=国内総生産（国民・企業・政府の使った額+貿易収支）

【町長】 県に要望していく。 注：OECD加盟国=経済協力開発機構（欧州・米・日など36カ国）加盟国

※ 年単位で調整する変形労働時間制とは・・・

忙しい学期中の勤務時間を延長する代わりに夏休みにまとめて休みをとるなどの年単位で働き方を調整する制度

《問題点》 夏休みでもクラブ指導などで休みがとれない。定時の勤務時間が延長されると（例：午後5時→午後7時）、会議が入りやすくなり、持ち帰り残業が増える恐れもある。



写真4 広域連合での病児保育実施が予定されている大町市立病院

### 2. 病児保育は町の責務で実施を。

【質問1】国は「子ども・子育て支援新制度」で病児保育の実施を支援している。昨年の北アルプス広域連合11月定例会で、私は広域連合での病児保育の実施を求めたが、具体的回答がなかった。子育て世帯で病児保育の要望は強い。町長の考えは。

【町長】広域連合から病児保育について次のような回答があった。「大町市立病院で実施の予定で、令和2年度予算に施設改修費400万円、保育士2名分の人員費1,000万円を計上する」。

【質問2】広域連合で病児保育実施の方向が打ち出されたことは歓迎する。しかし、池田町・松川村の子育て世帯は大町市での病児保育を利用しづらい。北アルプス医療センターあづみ病院（以後、あづみ病院）での病児保育の実施を松川村と一緒に検討する考えはないか。

【町長】あづみ病院は、人・場所の問題で病児保育に対応できる状況にないとしている。当面、大町市立病院での病児保育が安定運営になるよう取り組みたい。

### 3. 学校給食パンの安全を。

【質問1】農民運動全国連絡会の食品分析調査で、学校給食のパンで発がん性の疑いのあるグリホサート（除草剤）が検出されたとの報道があった。池田松川給食センターのパンは安全か。

【回答】給食センターでは、パンに使う小麦粉を長野県学校給食会から調達している。その小麦粉は10月まで国産小麦80%、外国産小麦20%であったが、11月から国産小麦90%にした。

【質問2】安全な地元産の小麦を取り入れて、学校給食会からの小麦比率を少なくできないか。

【回答】学校給食会から小麦調達で安定的な供給が保障されること、また、学校給食会は国産100%を目指しているので、町として学校給食会からの小麦比率を少なくする考えはない。

表 学校給食パンのグリホサート残量

県	パンの種類	小麦粉の配合割合	残留濃度
A	コッペパン	輸入8割、国産2割	0.05 ppm
B	コッペパン	輸入のみ	0.04 ppm
C	ロールパン	国産のみ	検出されず